

～ 学校史抄 ～

中部楽器技術専門学校

昭和54年	11月 9日	ピアノ調律師養成学校開校準備のため設立。 名称 “中部ピアノ調律専門学院”
昭和55年	4月 1日	“中部ピアノ調律専門学院”を開校。 校 長 前川 知賢(初代校長) 理事長 岩田 光義 顧問 横井 園生(名古屋音楽大学学部長) 所在地 名古屋市昭和区御器所通3-2
昭和56年	4月 1日	愛知県より専修学校の認可を受ける。“中部ピアノ技術専修学校”と改名。
昭和57年	4月 1日 12月 1日	研究科(1年)を開設。 新校舎建築予定地を取得。 場 所 名古屋市昭和区阿由知通3-13-6
昭和58年	8月	第1回 海外実習生イタリア(ナポリ)に派遣。
昭和61年	4月 8月	長野県上水内郡中条村旧日下野小学校校舎を改造。 「合宿研修センター 中条学舎」を設置。 台湾の劉麟和氏等、台湾調律師一行(18名)を引率し来校。 学校にて2週間の技術研修に参加。
昭和62年	4月 5月	“中部ギタークラフトスクール”を開設。 第3校舎を昭和区石仏町に増設。学校本部を同校舎内に置く。 学校本部 名古屋市昭和区石仏町1丁目1番地 2代目校長 山田 五郎 就任。
昭和63年	4月 1日	本校の楽器技術者養成の分野を従来のピアノ調律に加え、以下の3分野とする。 既 設 ピアノ調律コース 新 設 管楽器リペアコース ギタークラフトコース 従来の中部ギタークラフトスクールはギタークラフトコースと変更。
平成元年	3月 3月 16日 4月 1日	新校舎完成(鉄筋4階建) 所在地 名古屋市昭和区阿由知通3-13-6 本校創立10周年行事を三重県志摩郡ヤマハ「合歓の郷」において開催。 校名を“中部楽器技術専門学校”と改める。学校本部を新校舎に置く。
平成2年	4月 1日	3代目校長 伊藤 晴雄 就任。
平成3年	10月 11月	昭和55年から永年にわたり、児童福祉施設でピアノ調律慰問の奉仕活動を続け、 名古屋市長 西尾武喜 より表彰を受ける。 学校文化祭に、アントン・キューネル氏を招き、吹奏楽指導者を集め指揮法の講座を開催。 (於 電気文化会館)
平成4年	5月 27日	オーストリアのオッテンザマー氏(ウィーンフィル首席 クラリネット奏者)来校。 管楽器リペアコースを見学し、レクチャー及び演奏を実施。
平成5年	1月 31日 2月 19日	学校文化祭としてピアニスト 杉谷昭子氏を招き、世界の銘器4大ブランドピアノ演奏会を 名古屋電気文化会館 ザ・コンサートホールで開催。(ヤマハ、カワイ、スタインウェイ、ベーゼンドルファー) 本校特別講師 秋山紀夫氏 による吹奏楽講座を開催。 東海地区から100余名の指導者が受講。 中国南京市を訪問。南京芸術学院と友好提携を結び、 技術、職員、学生の日中相互交流契約を。取り交わす。
平成6年	7月 18日 8月 22-23日	南京芸術学院教員 劉 學禮 研修のため来日。 名鉄グランドホテルにおいて学校創立15周年記念フォーラムを開催。 テーマ「これからの楽器店経営戦略」 日本全国から100余名のオーナーが参加。
平成7年	1月 14日 11月 24日	南京芸術学院から100名の職員と学生が、外山雄三指揮によるマーラー作曲 「千人の交響曲」演奏会出演の為に来名。(於 愛知県芸術劇場大ホール) 江蘇省教育委員会より南京芸術学院に南京鋼琴調律学校の設立が認可される。 南京鋼琴調律学校 校 長 鄒 建平 来日。

平成8年	1月 7日	文化祭で、古典ピアノの演奏会を飯野淳也氏により開催する。 (於 電気文化会館ザ・コンサートホール)
	9月 15日	中日合作南京鋼琴調律学校の開学式典。 中部楽器技術専門学校教職員全員及び日本の楽器業界関係者が多数参加。
平成9年	10月 26日	文化祭行事としてイタリアのデュオピアニスト ジェミティ兄弟を招き、 都築正道氏によるレクチャーとコンサートを実施。(於 愛知県芸術劇場コンサートホール) 中古楽器チャリティーオークションを実施し、その売上金で楽器を購入しマレーシアに寄贈。
平成10年	11月 1日	第2校舎の紅梅校舎を取得。 ピアノ調律、管楽器リペア、弦楽器製作の実習教室を拡充。
平成11年	4月 1日	3コース(ピアノ調律、管楽器リペアコース、ギタークラフトコース)を3学科として設置変更。
	10月 10日	創立20周年記念行事として「オールセラミックス楽器コンサート」を開催。 (於 愛知厚生年金会館大ホール) 協力 ムジカセラミカ振興会・ファインセラミックス楽器研究会 後援 愛知県・(財)2005年日本国際博覧会協会・(株)INAX
平成12年	2月 20日	創立20周年記念行事として、楽器業界オーナー対象の「講演会・懇親会」を実施。 (於 ウィステインナゴヤキャッスル) 全国各地から楽器業界関係者200名あまり参加。
平成13年	4月 1日	弦楽器製作科にバイオリン修理&製作コースを新たに設置。
	8月	業界専門誌発行のミュージックトレード社 桜井行於社長 を講師に、 楽器業界のオーナー対象に企業セミナーを開催。(於 木曽福島高原)
	11月 7-11日	中日合作の中国南京芸術学院 愛楽専科学校(前身 南京鋼琴調律学校)が5周年を迎え、 記念式典参加のため、教職員全員が同校を訪問。同時に中国楽器業界事情視察を兼ねて、 日本の楽器業界関係者が多数同行。
平成14年	4月 1日	学校本部を名古屋昭和区阿由知通3-13-5に移動。3校舎制となる。
	10月 16-19日	中国では初となる国際楽器見本市(ムジークメッセ)が上海で開催されるのに合わせて、 ミュージックチャイナ オリジナルツアーを企画し、多数の楽器業界関係者を引率。 上海音楽院や揚州にある民族楽器工場なども視察。
	11月	ドイツのマイスター取得を目的としたノルウェーの楽器製作技術学校 (The Musical Instruments Academy)の校長Arnfred Marthinsen氏が来校。 学生相互の交流や、職員交流等の姉妹提携を結ぶ。
平成15年	2月 22日	4代目校長 山口 太 就任。
	9月 29日	日響楽器㈱の加藤満社長による「コンクールやコンサートを活用した販売戦略法」、 ミヤザワフルート製造㈱の宮沢正会長による「管・弦・打の重要と流通をとらえた拡売戦略法」など、 効果的な販促企画の勉強会を岐阜県可児市で実施。全国各地から楽器業界関係者が多数参加。
平成16年	4月 1日	楽器総合学科を新設。
	12月 24日	創立25周年記念行事として、記念コンサート「もう一つのベートーヴェン 第九演奏会」を イタリアのデュオピアニスト ジェミティ兄弟の演奏で開催。(於 愛知県芸術劇場コンサートホール)
平成17年	11月 13日	学校文化祭行事の一環で、楽器業界セミナーを開催。 テーマ①「弦楽器(バイオリン族)販売基礎知識」 テーマ②「これからの社長の仕事」
	12月 22日	楽器業界のオーナーやマネージャーなど約40名が参加。 11月実施の文化祭行事売上金で同区内の「松栄保育園」、「希望幼稚園」にドレミパイプ、 キッズパーカッションセットなど多数の楽器を寄贈。
平成18年	2月 1日	5代目校長 大橋 隆行 就任。
	4月 1日	実習校舎を増設。4校舎制となる。
	7月 1日	三重県湯の山に研修施設を導入。学生の合宿や各種研修に利用。
	8月 9-10日	長野県「合宿研修センター中条学舎」廃校に伴い、卒業生交流会を現地で実施。 100名あまりの卒業生が参加。
	10月 19日	バイオリニスト 佐藤陽子を迎えて、「ストラディバリとガルネリの聴き比べ」コンサートを 本校主催で実施。(於 愛知県芸術劇場コンサートホール) 一般市民、業界関係者など全席無料ご招待。
	12月 4-5日	ピアノ調律師フランク・モア氏が4日に来校。在学生に特別レクチャーを実施。 5日には本校主催のコンサート「ピアノの巨匠たちとともに」(於 名古屋市 しらかわホール)に ピアニスト 三輪 郁とともに出演。 使用ピアノは故ホロヴィッツ愛用のスタインウェイD-274モデルNo.314503 楽器業界のオーナーやピアノ技術責任者など約50名が参加。

平成19年	1月 17日	前年11月に実施の文化祭行事売上金で同区内の「駒方保育園」にキーボード、トーンチャイムなど多数の楽器を寄贈。
	11月 1日	シカゴ在住でヴィニアフスキー国際バイオリン製作コンクールの審査員を務めるなど経験豊富なバイオリン製作者 松田鉄雄 氏が来校。バイオリン修理＆製作コースの学生に対して特別講義をされる。
	11月 16日	世界的に有名なジャズギタリスト 吉田次郎 氏が来校。ギタークラフトコースの学生作品を試奏し、それぞれの作品に対して課題点などのコメントを頂く。ミニコンサートも実施。
	11月 20日	『若い人材をいかに採用し、いかに育成して企業を存続・発展させるのか』をテーマに、楽器業界のオーナー向けセミナーを実施。若者の早期離職の実態分析や他産業の採用実態を掴むと同時に、楽器業界の事例発表も含めた興味深い内容となり好評を博す。楽器業界のオーナーや人事採用の責任者など約50名が参加。
平成20年	6月 20-22日	『弓の毛替え習得』をテーマに、バイオリン技術研修会を楽器業界の技術者向けに実施。
	8月 11-12日	第一回研修会を6月に行い、受講者は各自で2カ月自習を重ね、8月に第二回目の研修会を行うという本格的な研修会。
	10月 7-11日	楽器総合学科の中国上海メッセ見学研修に際し、友好提携校である中国南京芸術学院との学生交流会を開催。相互の技術講習会や音楽文化の交換会を行う。教職員7名同行。
平成21年	9月 4日	「本気の朝礼」の極意を探る！～社員を元気に日本を元気に をテーマとし、居酒屋「てっぺん」の創業者 大嶋啓介 氏による企業セミナーを桑名市民会館で開催。オーナーをはじめ約60名の楽器業界関係者が受講。「てっぺん桑名店」では公開朝礼にも参加。
	10月 26日	30周年記念『～モノづくり、音づくり、人づくり～ クラシック＆ジャズ夢のスペシャルコンサート』 出演: 吉田次郎(G)、須川展也(Sax)、山形由美(FI)ほか 会場: 愛知県芸術劇場コンサートホール 地元政財界、楽器業界関係者、学校関係者、卒業生等1500名に加え、一般市民など無料ご招待。同時に、吉田次郎氏が親善大使を務める国連WAFUNIFに対して、寄付金支援を呼びかけたところ、多くの寄付金を得る。これ以後、寄付金支援を継続する。
	11月 26日	CoCo壱番屋創業者特別顧問・宗次ホールオーナーの宗次徳二氏を迎えて演奏会と後援会を実施。全国楽器業界の女性管理職が多数参加。ランチを挟み盛んな交流の場となった。
平成22年	4月 1日	学校設置者を岩田光義から角堀雅信に継承し、6月には学校運営に新体制が敷かれる。 校長(6代目) 角堀雅信(設置者) 専務 早川昌幸 副校長 大野重忠 特別顧問 大橋隆行 相談役 岩田光義
	9月 28日	ドイツのピアノメーカー シュタイングレーバー社長 ウド・シュミット・シュタイングレーバー氏来校。ピアノ調律科学生に対し、アップライトピアノでも連打を可能にした機能の特別講義を行う。
	11月 26日	中京大学大学院教授 室伏重信氏を講師に招き、『設置者継承講演会』を開催。 (於 ウェスティンナゴヤキャッスル) 講演テーマ:「私はアジアの鉄人、息子は世界一」 楽器業界関係者、学校関係者、卒業生等約180名が参加。 当日は、名古屋市商工会議所前会頭 岡田邦彦氏からご祝辞、 元ウィーンフィルチェロ奏者 アダルベルト・スコチッチ氏による祝賀演奏も催される。
平成23年	2月 16-17日 19-20日	元野中貿易株式会社 技術課長で管楽器工房Geppetto代表 佐場野徹氏を講師に招き、『サクソフォン調整技術研修会』を開催。 管楽器の修理でも需要度の高いサクソフォンに焦点を絞り、現場で必要とされる応用テクニックを伝授。卒業生など約30名が受講。
	10月 4日	歴史学者で静岡大学名誉教授の 小和田哲男 氏を招き、企業オーナー研修を実施。 テーマ「信長・秀吉・家康 今、戦国の英傑たちから学ぶ経営」
	10月 15-16日	管楽器リペア科卒業生支援として、フルートマスターズ社長の野島洋一 氏を招き、ピッコロ研修を仙台で実施。 同内容で、11月横浜、12月三重県(湯の山研修センター)、翌年2月福岡と神戸で実施。
	10月 23日	昭和区民祭りにて、本校学生らが「ふれあいステージ」の舞台係として協力。
	11月 9日	教職員と学生からの公募形式で選定した校訓が決定。「一技至誠～根気・努力・忍耐」
	11月 27日	台湾のピアノ調律の権威者 林大嘉 氏を招聘し、整音のスピードアップのため独自に考案された工具を実践・紹介する勉強会を卒業生研修として実施。
	12月 19日	イタリアのデュオピアニスト ジェミティ兄弟が来校。 ピアノ調律科の学生に向けたレクチャーコンサートを実施。

平成24年	2月 13-17日	東北大震災後、支援活動の一環として、東北工業大学をはじめとする高校を含めた11校に対し、吹奏楽部等の楽器修理やメンテナンスをボランティアで実施。学生15名、教職員4名に加えて、全日本吹奏楽連盟名誉会長であり、本校特別講師でもある 秋山紀夫 氏も同行される。
	2月 17日	親善大使である吉田次郎氏の働きかけで始まった国連WAFUNIFへの寄付金支援に対して、国連本部に岩田光義が招かれ、国連WAFUNIF代表のイバン・ハッサン氏から感謝状を得る。
	8月 6-8日	平成23年に導入されたピアノ調律職種技能検定対策として、一般調律師を対象に本校独自の対策研修会を実施。これ以後、度々実施する。同時に、本校が検定試験の指定会場に任ぜられる。また、同日に卒業生支援として、全学科卒業生を対象に「弓の毛替基礎技術研修」を実施。「幹弓」代表の甲斐幹久 氏 を講師として多くの卒業生が参加。
	9月 11-12日	アトリエ・ミネ代表 谷峰忠雄 氏を招き、「オーボエの修理・調整技術研修会」を管楽器リペア科卒業生を対象に東京で実施。同内容で、同月に名古屋、翌10月には広島で開催。
	10月 16日	(株)ヒューマン・キャピタル・コンサルティング代表取締役 川崎清吾 氏を招き、企業オーナー研修会を実施。テーマ「折れない社員の育て方」
平成25年	4月 1日	学校法人「中部学園」として正式に認可される。 理事長 角堀雅信 理 事 岩田光義 理 事 早川昌幸 理 事 大橋隆行 理 事 岩田竜平 監 査 糟谷和彦 監 査 森 桜子 設置者変更で角堀雅信から、学校法人中部学園となる。
	7月 13日	あいちサマーセミナーへ参加。ピアノ・管楽器・弦楽器の技術体験コーナーで出展。教職員5名が参加。南山小学校で開催された。
	5月 20-25日	弦楽器製作科バイオリン修理＆製作コースの学生9名がイタリアクレモナへ研修。国立国際バイオリン製作学校等を見学し技術・知識等を習得する。
	8月 9日	山内敦子ピアノリサイタルを開催。 「第1部 〜バツハから現代まで〜」「第2部 〜ショパンを主に〜」 来場者120名。
	9月 25日	アンジェロ・アクイリーニ氏来校。当校の楽器総合の生徒がスタッフとしてリサイタルに参加。
	10月 9-12日	上海で行われたミュージックチャイナへ弦楽器製作科ギターコース、楽器総合学科の生徒がギターの新作、民族楽器等の商品を見学した。
	10月 22日	楽器業界のオーナーを中心としたセミナーを開催し、楽器業界のオーナー4名が講話。 テーマ①「一特約店として、一企業として」(株)イケダ光音堂 社長 池田 洋氏 テーマ②「バイオリンビジネスの新たな取り組み」(株)国際楽器社 社長 松永 欽氏 テーマ③「震災復興需要とこれから」(株)三立 社長 松浦 正敏氏 テーマ④「地方都市での楽器ビジネスを考える」(株)富岡本店 社長 富岡善一郎氏
	10月 27日	楽器業界のオーナー等 参加者39名が参加し、盛況のうちに終了した。 昭全区民祭りに参加。当校が作曲した「昭全区民の歌」が披露される。
	12月 4日	当校がステージの監修を請負い、学生が演奏披露。来場者3万人、ステージ来場者約400名。 イタリアのデュオピアニスト ジェミティ兄弟が来校。ピアノ調律科の学生に向けて、レクチャーコンサートを実施。
平成26年	11月 5日	楽器業界のオーナーを中心とした企業セミナーを開催。 (株)船井総合研究所上席コンサルタント 唐土新市郎氏 (株)文京楽器執行役員営業担当 堀 西基(ゆうき)氏の講演2本立て。 テーマ①「経営も人生も楽しむために大切なこと」 唐土新市郎氏 テーマ②「バイオリンの魅力とビジネスの可能性」 堀 西基氏 楽器業界のオーナーを中心に約50名が参加し、盛況のうちに終了した。
	11月 8-9日	学園祭が当校1〜3号館、4号館で開催される。 11月9日(日)には特別講師の吉田次郎先生のライブが1号館2階で開催された。 出演:板井紅介、加納樹麻、佐藤知昭、Andy Ezrin(アンディ エズリン)、Ole Mathisen(オレ マテセン) 海外アーティスト2名の参加もあり合計6名の演奏会となり、観客約100名を魅了。
	11月	ミャンマーにある村(ヤンゴンから約300km北東のインレー湖畔の村)の保育園に鍵盤ハーモニカを50台寄付をする。 当校の岩田光義理事が昨年NPO法人「日本ミャンマー豊友会」が支援しているミャンマーへの視察旅行に同行したことがきっかけ。 村の保育園では楽器がほとんど無く、電気が無くても演奏可能な鍵盤ハーモニカが有効であると、名古屋市内の小中学校に使われなくなった鍵盤ハーモニカを寄付してくれるよう呼びかけた。 1ヵ月で約400台が集まり、楽器総合学科1年生全員が修復。 50台の修理が終わり現地へ送り、残る350台の修理も続け来年以降現地へ贈る予定。

平成27年	3月	職業実践専門課程に認定される。 これは、専修学校の専門課程で、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを文部科学大臣が認定して奨励することにより、専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的としている。(平成25年度より文部科学大臣が認定) 当校は、平成26年度に申請し認定される。
	3月 26日	認定学科は、楽器総合学科、ピアノ調律科、管楽器リペア科、弦楽器製作科(ギタークラフトコース・バイオリン修理＆製作コース)の4学科2コースが認定された。 26年11月にミャンマーへ鍵盤ハーモニカを50台寄付したことによる第2弾。 岩田光義理事、楽器総合学科2年生2名が、鍵盤ハーモニカをミャンマー国家へ300台を寄付する贈呈式に出席。学生の鍵盤ハーモニカ演奏、修理等を実演し、子供達から感謝される。 300台の鍵盤ハーモニカは、5～6月頃にミャンマーへ贈る。
	10月 19日	国連(ワフニフ)のハン総長が来日し、本校に来校された。 来校の経緯は、本校の特別講師の吉田次郎氏が国連(ワフニフ)の親善大使を務めており、その縁での来校となった。ハン総長自身は本校に対して非常に関心が高く、実習室等も視察し学生達とも記念写真に収まる等、終始、和やかであった。
	10月 14-17日	中国研修が実施された。 参加者は楽器総合学科34名、弦楽器ギター・クラフトコース6名の合計40名。 上海で開催されるミュージックチャイナの見学と南京芸術学院の中の南京流行音楽学院の学生との日中友好交流会への参加が目的。楽器総合学科の40名が日中友好交流会に参加し、双方ともに実のある交流会となった。
	11月 4日	楽器業界のオーナー様のための企業セミナーを開催。 ①東京工業大学理工学研究科特任教授の北澤孝太郎氏 テーマ「中小企業が生き残り、高付加価値を生み出すための価格戦略を考える」 ②(株)フルートマスターズ代表取締役社長 野島洋一氏 テーマ「リペアは儲かる？」
	11月 14-15日	参加者は60名。講演後の懇親会でも楽器業界の情報共有がなされた。 学園祭が、当校1～3号館、4号館、昭和区役所の講堂で開催。 11月14日(土)は、名古屋の中高生「フリーヒルズジャズ・オーケストラ」と、オリジナル楽器の【平成琴】を用いてパフォーマンスをするアイドルユニット「平成琴姫」の2組が特別ゲストで出演。 11月15日(日)は、ストリートシンガー＆売れっ子作曲家の男性二人組のユニット「USAGI」、世界的ギターリスト「吉田次郎氏」のライブが行われた。 学園祭の来校観客数は1,200名超と盛況であった。
平成28年	4月 1日	平成28年度より、楽器総合学科のカリキュラムを一部見直しをして、3年次の専科に副科を設け、教育課程の改革を図る。 また、特任講師として、杉田元一氏(ソニーミュージック)、クリヤ・マコト氏(ジャズピアニスト)の2名を新たに迎えた。
	6月 13日	楽器業界の代表者・ピアノ技術担当者様を中心とした「ピアノ調律実技講座」を開催。 ピアノ調律職種技能検定は6年前から国家検定試験に認定されており、以前より「検定受験のための対策講座」を開催している。 台湾から林 大嘉氏(台湾ピアノ調律協会 第7代会長)、劉 麒和氏(国際ピアノ製造技師調律協会第17代会長)の2名を招聘し、生き残りをかけたピアノ販売・技術講座も開催された。
	10月 18日	テーマ「コストパフォーマンスを実現する中古ピアノの再生修理(リビルド)」 参加者は30名強。 楽器業界のオーナー様のための企業セミナーを開催。 今回の基調講演は、ジャズプレイヤーの森 剣治氏に依頼。 テーマ「いま、楽器産業に携わり発信する者は、何を考え、何を成すべきか」 楽器業界のオーナーを中心に40名強の参加があり盛況であった。 懇親会も含め、楽器業界の情報を共有した有意義なセミナーであった。
	11月 12-13日	学園祭にて、昨年度に引き続いて「フリーヒルズジャズオーケストラ」を招いてコンサートを開催。 このほかには、和楽、KAJI、和太鼓集団「沙羅」などが出演。
平成29年	3月 30日	管楽器リペア研究科が愛知県より認可を受け、平成29年度からスタートの運びとなる。
	6月 10-11日	ニュージーランドのジェンキンピアノ 中村祐司 氏によるタッチ・ウェイト・マネジメントの研修会を実施。多くの調律師が全国各地から参加。
	9月 11日	新館の建設が完了し、管楽器リペア科全学年と音楽サービス創造学科の一部の学生が利用を開始。 (名古屋市昭和区御器所通2丁目5-2)